

たいりん

川越市倫理法人会広報紙たいりん (毎月1回1日発行)

発行:川越市倫理法人会 〒350-0043 川越市新富町1-9-1

電話 049-270-6208 ファクス 049-224-8636

E-mail:kawagoe@rinri-saitama.org

発行人:北野 京子/編集人:江場 麻里子

平成25年(2013年)

10月号

毎週金曜日・午前6:00~7:00

モーニングセミナー開催

会場:湯遊ランド・ホテル三光 3F

積善余慶 SEKIZENYOKEI

中部地区長
渡邊 一美
(とうふ工房 わたなべ)



積善余慶とは

「積善の家には必ず余慶あり」(せきぜんのかいえにはかならずよけいあり)

この言葉には、善行を積み重ねた家は、その報いとして子孫に必ず幸福がおとずれるとの意味があります。より倫理の学習を深め、実践を積み重ねていただくにあたり、最適なキーワードとしてこのコーナーのタイトルとしました。

しきなみ短歌の会に入会して

2年半ほど前、倫友に誘われてしきなみ短歌の会門井支苑に入会しました。入会時の自己紹介の折、私は亡父母と短歌について話しました。戦後大家族の中で結婚したふたりにとってのコミュニケーションは1冊の雑記帳に綴る短歌だったこと、また52歳で他界した母の日記にはいたる所に短歌が認めてあったことなどを話しました。当時の短歌講師は「10年は続けなさいね、きっとあなたの良い日記になりますよ」とアドバイスを頂きました。入会した当時から短歌講師の隣の席が私の指定席でした。

初めて詠んだ歌が入選しました、ビギナーズラックと言われましたが嬉しかったです。

授乳後の初孫渡されおどおどと
新米ジジはやさしく抱けり

冬晴れに妻と登りしみかん山
わが山からもスカイツリー見え
会のメンバーは家庭倫理の会の会員さんで構成されておりますが法人会のメンバーも半数居ります・どなたも皆様やさしい方々ばかりで月に一度の短歌の会は楽しみです。
普及を詠んだ歌も入選しました。

目標の百五社までに届かぬと
つい愚痴の出る雨つづきの日
日常の活動にせよと言うけれど
こころの晴れない普及の二文字

猛暑続きの残暑を詠んだ歌もありました。

ひと夏をかいっぱい鳴く蝉も
きょう鶉の嘴にあり
澄み透る蝸の鳴く夕暮れに
「夏も終われね」妻ひとりごと

趣味で始めた素人ちんどん屋を詠んだ歌。

横丁の懐かしひびきのちんどん屋
人だかりして蔵づくりの街
遠くよりちんどん屋の曲流れ来る
郷愁誘うクラリネットは

里帰りした娘から習ったことを歌に詠む。

今時の友と繋がる方法を
娘に習うフェースブックを
「いいね」って押すと心が通じるような
そんな出合いを楽しんでいる

短歌講師をはじめ優しい支苑の皆様のおかげで楽しい歌を沢山作ることが出来るようになりました。良き友と良き歌とそして良き恩師と生涯の宝としたいと思います。

おむすびころりん



会員
清水 はま子
(hama)

「おむすびころりん」って?

いつものように山仕事に出ていたおじいさん。昼食のおむすびがひとつ滑り落ちて、木の根元に空いた穴に落ちてしまった。おじいさんが穴を覗くと、何やら声が聞こえてくる。穴の中にはたくさんの白いねずみがいて、おむすびのお礼にと、大きい葛籠と小さい葛籠を差し出し、おじいさんに選ばせた。おじいさんは小さい葛籠を選んで家に持ち帰った。家で持ち帰った葛籠を開けてみると、たくさんの財宝が出てきました。お話の続きにはこの話を聞きつけた強欲なおじいさんがひどい目に会うというオチがついています。人に及ぼす無欲な行為によって報われるという、理想にしたい生き方ですね。

花の心と人の心を結ぶ演出発信

子供の頃からの夢だった花屋さん。

大人になった私は子供の頃の夢通り花屋になりました。

最初の店はビルの1階の階段下の1.5坪空間を斜めに切った小さなスペース(小さな花屋に何が出来る)などなど心ない言葉が向けられたことも…。でもその悔しさをバネに笑顔と幸福、新鮮な驚きを提案できるアイデアが次々と実現させることができました。始まりは小さな花屋でしたが店舗数もスタッフ数も増え花の柱や、ワールドカップのVIP室のデザイン、クリスチャンディオールの花部門担当、アイスランド大統領来日パーティー

の花、たけしの誰でもピカソのスタジオの花など、大きなイベントを手掛ける機会も増えていき、若いスタッフにとっては貴重な勉強の場でもあります。

私にとって最もやりがいのある仕事はやはりブライダルです。最盛期には年間1,000組ものブライダルを手がけました。私自身これまで製作したブーケは1万個以上になります。それだけの数を製作しても、花嫁さんのブーケは一つ一つが各々特別だから花嫁さんがブーケに託す思いや物語性を大切に、心を込めて製作しました。ときには1つに分けられるブーケや、ドレスの中心をきれいに見せるためのセンターが開いたデザインのブーケなど力量が試されるようなオーダーが入ること

もありました。悩み抜いた末にできあがったブーケは必ず喜んでいただけましたし勉強にもなりました。ブライダルに関しては移動式チャペル、チュッパチャペルや香りのウエディングサジェのバーজনロードなど、新しいブライダルの企画も提案し、心が弾み、本番はいつも涙が出そうになってしまいます。やはり格別に思い入れが強まる仕事と言えます。

「花を添える」と言う言葉があるように、花ほど素敵な添え物はありません。これからもう少しは健気で美しい花の心と人の心を結ぶ素敵な演出を手掛けていきます。

これからのもう一つの夢は、畑を作って花や野菜を育て、自分のためにお花を愛していきたいと思っています。